

# 大正15年(1926年)

# 農林学校修学旅行

汽車が無かった当時の修学旅行、徒歩での長距離移動は大変でしたが、楽しい思い出のひとつでした。

## 農林の修学旅行

現代では、バスや電車、飛行機など交通機関も多様でいろいろなところに行くことが可能ですが、当時は高山線が開通していなかったので、長距離の徒歩での移動がありました。私たちに考えられないですね。今、簡単に沖繩に行けるのは、当たり前前の事ではないので、感謝しましょう。戦争で中止になった後、昭和26年に戦後初めての修学旅行が行われました。生徒の旅行委員会が強力に準備を進めた結果、一度に家庭に大きな負担をかけることを懸念していた学校側の許可を取り付けて、父兄会でも大多数の支持を得て実施となりました。行き先は関東となり、箱根、江ノ島、東京を5泊6日で回りました。これは、偶然にも第1回農林学校修学旅行と同じ行程でした。

○修学旅行も楽しい思い出のひとつです。5泊6日だったと思うが行先は東京で、まだ汽車が無かったので徒歩で金山まで行き1泊、翌日白川口まで歩きました。

初めて線路を見た時はトロッコの線路より大きいのにびっくりし、初めて汽車に乗った者が多いので、ほとんどが車酔いして真っ青になってしまった。

○岐阜、鎌倉、東京へ着いた時にはずいぶん疲れていた。そして憧れの東京では三越でエレベーターに乗り「いくらですか」と聞いてタダという事で何度も大笑い。社会の知識と

いう点では今の保育園程度であったかもしれない。

○しかし当時飛騨から出た代議士牧野良三先生のおはからいで国会議事堂を見学させてもらい、大臣席にちよっと座った時には得意満面の茶目っ気もありました。

○帰りは中央線で、坂下から1日かかりでまた歩いて帰りました。そして、都会の知識を吸収して、下級生や家ものにも、ホラを吹いて話をしたものです。

岡崎禮智「益高五十年」より

大正15年修学旅行 横須賀軍港



大正15年修学旅行 鎌倉

